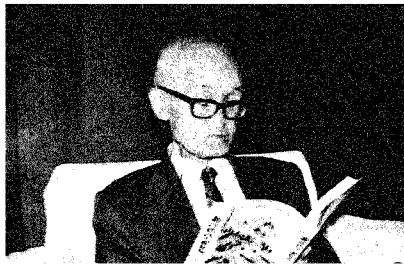


郷土史研究に新たな視点

中野八吾氏 妙心法師の全ぼうを解明



郷土史研究家として知られている中野八吾氏(八〇)は市内十日市場在住。このほど御正体山の開祖、妙心法師に関する調査研究の集大成を、一冊の本にまとめました。妙心法師は文化年間(今から約百六十年前)に御正体山で修行、即身仏(ミイラ)となって周辺の人々の信仰を一身に集めた僧侶です。ミイラは現在、法師の生まれ故郷である岐阜県に移されていますが、数少ない日本のミイラのなかでも最も完全な部類といわれています。調査書「御正体山とお上人」は、妙心法師と富士講との関係、略伝、教義、ゆかりの遺跡、さらに人々の信仰の様子、寺院仏教とのかかわりについて細かく説き明かしています。

中野氏が研究をはじめたきっかけは、昭和の初めで、東桂小の教員時代にさかのぼります。南都留郡東桂村誌編さんのため、初めて御正体山に登り、若くして成仏した妙心法師の精神力に深い感銘を受けてからのことです。

出版なった「御正体山とお上人」



四年前、市などから協力を得て本格的な調査を始めました。地元の家に残る資料を中心に、御正体山、比叡山、四天王寺などゆかりの遺跡を求め、至るところを歩いて回ったとのこと。中野氏は、「妙心の気持に近づいたために数多くの教義書を読んだが、そのうち仏教の業(ごう)とい

うものが、おぼろげながら解ってくるようになった。そして、人間の業の深さを知るようになって、妙心の偉大さが理解できた。これからは、微力ですが、人のために力を注ぎたい」と語っておられました。

中野氏の益々のご壮健とご活躍が期待されるようです。

この記事は5月29日付の山梨日々新聞に掲載されたものを、一部借用しています。

富士山に、農鳥“あらわれる”

田植えの季節をむかえ、農家が農作物に追われている5月中旬、その年の農作物の出来、不出来を占う。農鳥が富士山に現われました。この農鳥とは、山の雪どけ時期に沢に残った雪の形が鳥の姿に似ており、ちょうどこの時期に農家では田植が始まることから、この

鳥正体山とお上人

囲った部分に、あざやかにみえる農鳥

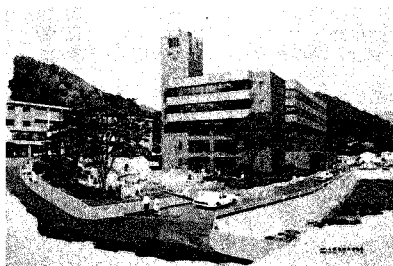


鳥に秋の豊作への希望を託す意味で、いつとはなしに農鳥と呼ばれるようになったものです。

はばいた羽根の形や足の長さ、方向などをみて豊作か兎作か占うもので、このような言い伝えは全国いたるところに残っており、特に南アルプスの農鳥岳の農鳥は有名です。

都留大のシンボル：

完成に向け急ピッチで：



文教都市、都留市のシンボルと大学教育の拠点として、昭和56年5月の完成を目指して、大学本部棟の建設工事は、いま着実に進行しています。

この建物は、鉄筋コンクリート造5階建、床面積4512、98㎡、総事業費8億2千万円の規模で計画進行中です。一階は食堂及び購買コーナー、二階は事務室、三階は大会議室、学

長室、学科事務室等、四・五階が研究室、ゼミナール室になります。ここに掲げた写真は完成予想図ですが、来年の今ごろは、大学キャンパスをゼミナール室などに急ぐ学生で賑わうことでしょう。

民主警察をめざして！

市民と警察のつどい開催される5月17日、谷村第一小学校々庭で、警察に対する理解と、警察との結びつきを深めることをねらいとした「市民と警察のつどい」が開催されました。警察音楽隊のパレードに始まったこのつどいには、警察本部長も出席し、白バイ隊パレード、女子護身術の披露、警察犬の訓練、パトカーの試乗など盛りだくさんなものが用意されて、見物にきた大勢の市民を楽しませてくれました。また、ガールスカウトの音楽演奏行進、婦人会による民謡おどり、道志村有志による「東富士七里太鼓」の披露などが行なわれ、このつどいをよりいっそう賑やかなものにしていきました。

